

2026年7月

県内企業の景況意識調査

(第197回)

共同調査

大銀経済経営研究所

大分信用金庫

大分県産業創造機構

* 2026年 4～6月期〈Ⅱ期〉の実績見込み

* 2026年 7～9月期〈Ⅲ期〉の見通し

2期連続の悪化

今期（2026年4～6月期〈Ⅱ期〉）の業況判断BSIは、前期比3.9ポイント低下の▲17.2となった。業種別のBSIは『卸・小売業』『金融・不動産業』『運輸業』の3業種で改善、『建設業』『製造業』『サービス業』の3業種で悪化した。

価格転嫁により卸・小売業が改善したものの、コスト上昇によりサービス業が悪化し、業況判断BSIも2期連続の悪化となった。

来期（2026年7～9月期〈Ⅲ期〉）の業況判断BSIは、今期比0.3ポイント上昇の▲16.9となる見通し。業種別のBSIは『製造業』『金融・不動産業』『サービス業』の3業種で改善、『建設業』『卸・小売業』『運輸業』の3業種で悪化の見通しである。

物価高により消費マインドの悪化が懸念されている卸・小売業が悪化する見込みだが、一部自動車メーカーからの受注が好調な製造業の改善が見込まれており、全体の業況判断BSIは若干改善する見通し。

* 2026年 4～6月期〈Ⅱ期〉の実績見込み

製造業……………原材料供給懸念により2期連続の悪化

卸・小売業……………卸売業は改善、小売業は前期と同水準

建設業……………2期連続の悪化

サービス業……………コスト上昇により2期連続の悪化

2 期連続の悪化

◎業況判断

【今期】(2026年4～6月期〈Ⅱ期〉)

業況判断BSI：▲17.2 (前期比▲ 3.9㊦)

<内訳>

- ・よくなった 13.2% (前期比+ 2.5㊦)
- ・悪くなった 30.4% (前期比+ 6.4㊦)
- ・変わらない 56.4% (前期比▲ 8.9㊦)

<業種別>

- ・前期比改善：3業種 (『卸・小売業』
『金融・不動産業』『運輸業』)
- ・前期比悪化：3業種 (『建設業』『製造業』
『サービス業』)

今期の業況判断BSIは、価格転嫁により卸・小売業が改善したものの、コスト上昇によりサービス業が悪化し、全体でも2期連続の悪化となった。

【来期】(2026年7～9月期〈Ⅲ期〉)

業況判断BSI：▲16.9 (今期比+ 0.3㊦)

<内訳>

- ・よくなる 15.2% (今期比+ 2.0㊦)
- ・悪くなる 32.1% (今期比+ 1.7㊦)
- ・変わらない 52.7% (今期比▲ 3.7㊦)

<業種別>

- ・今期比改善：3業種 (『製造業』『金融・不動産業』
『サービス業』)
- ・今期比悪化：3業種 (『建設業』『卸・小売業』
『運輸業』)

物価高により消費マインドの悪化が懸念されている卸・小売業が悪化する見込みだが、機械、鉄・非鉄金属が好調な製造業の改善が見込まれており、全体の業況判断BSIは若干改善する見通し。

◎売上高と収益

【今期】

売上高BSI：▲ 5.2 (前期比+ 4.4㊦)

3業種で改善

収益BSI：▲11.3 (前期比+ 5.8㊦)

3業種で改善

【来期】

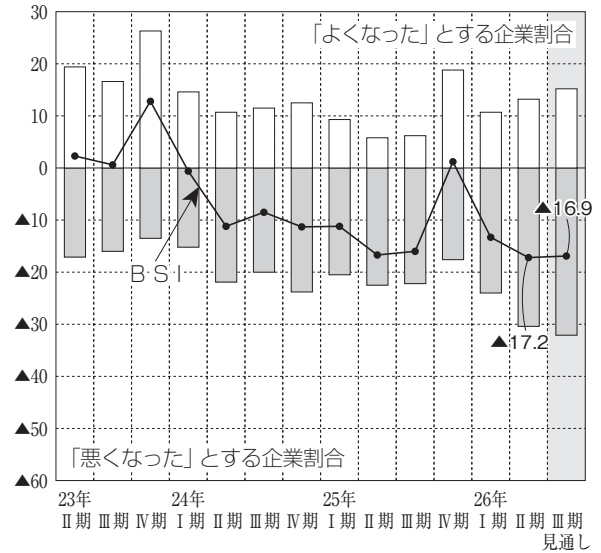
売上高BSI：▲ 5.7 (今期比▲ 0.5㊦)

3業種で悪化見通し

収益BSI：▲14.0 (今期比▲ 2.7㊦)

3業種で悪化見通し

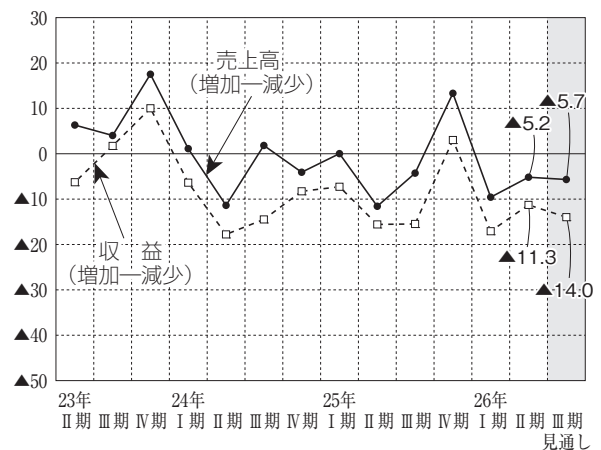
業況判断 (B S I)



業況判断指数内訳 (B S I)

	2025年 Ⅳ期	2026年 Ⅰ期	2026年 Ⅱ期	2026年 Ⅲ期見通し
建設業	0.0	▲ 5.6	▲15.7	▲31.2
製造業	▲ 8.9	▲25.7	▲29.4	▲ 8.2
卸・小売業	▲ 2.7	▲ 8.9	▲ 3.5	▲25.8
金融・不動産業	0.0	▲25.0	▲14.3	0.0
運輸業	7.1	▲20.0	▲14.3	▲42.9
サービス業	21.2	0.0	▲17.5	▲ 2.6
全 産 業	1.2	▲13.3	▲17.2	▲16.9

売上高と収益 (B S I)



◎所定外労働時間と雇用者数の現状

【今期】

所定外労働時間 B S I : ▲11.2 (前期比▲ 1.8ポイント)
3業種で低下

雇用者数の現状 B S I : ▲30.9 (前期比+ 9.7ポイント)
6業種で上昇

【来期】

所定外労働時間 B S I : ▲ 2.4 (今期比+ 8.8ポイント)

◎経営上の問題点

- 1位: 「原材料仕入価格高騰」(32.3%)
- 2位: 「人手不足」(14.8%)
- 3位: 「売上不振」(13.8%)
- 3位: 「人材不足」(13.8%)

業種別にみると、「原材料仕入価格高騰」と回答した割合は、『金融・不動産業』が50.0%と最も高い。「人手不足」は『建設業』で46.4%と特に高くなっている。

◎設備投資実施割合

【今期】

実施企業の割合: 36.8% (前期比▲ 2.5ポイント)
4業種で低下

<投資目的>

- 1位: 「補修・更新」(62.7%)
- 2位: 「生産能力の拡大・売上増加」(14.7%)
- 3位: 「合理化・省力化」(8.0%)

【来期】

実施予定企業の割合: 39.4% (今期比+ 2.6ポイント)
4業種で上昇見通し

<投資目的>

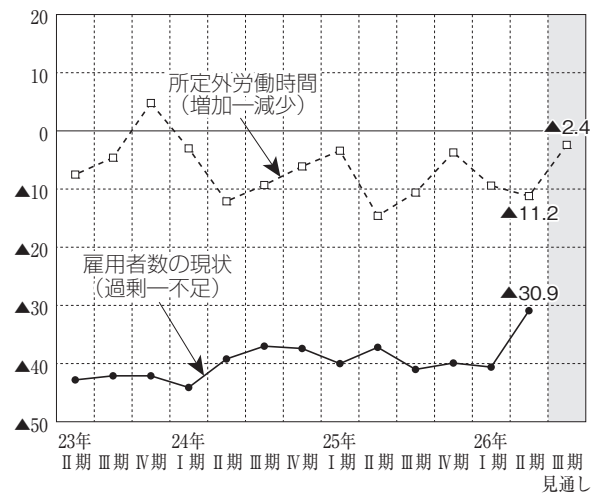
- 1位: 「補修・更新」(65.8%)
- 2位: 「生産能力の拡大・売上増加」(10.1%)
- 3位: 「合理化・省力化」(8.9%)

◎「令和8年度(2026年度)の賃上げ実施」について

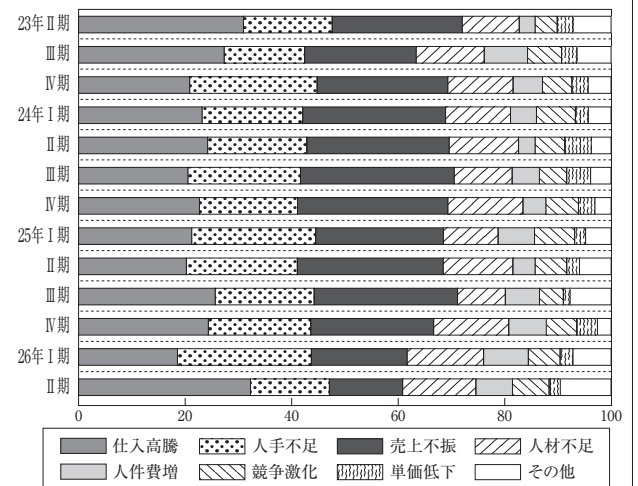
今回の調査において、「令和8年度(2026年度)の賃上げ実施」について尋ねたところ、「例年より高い水準で実施済み・実施予定」が26.0%、「例年通りの水準で実施済み・実施予定」が51.5%、「例年より低い水準で実施済み・実施予定」が3.5%、「実施しない」が4.3%、「未定」が11.3%となった。

前年の「令和7年度(2025年度)の賃上げ実施」についての調査と比較して「例年通り」が12.2ポイント上昇した一方、「例年より高い」「例年より低い」「実施しない」「未定」がそれぞれ9.8ポイント、1.1ポイント、2.6ポイント、1.4ポイント低下した。

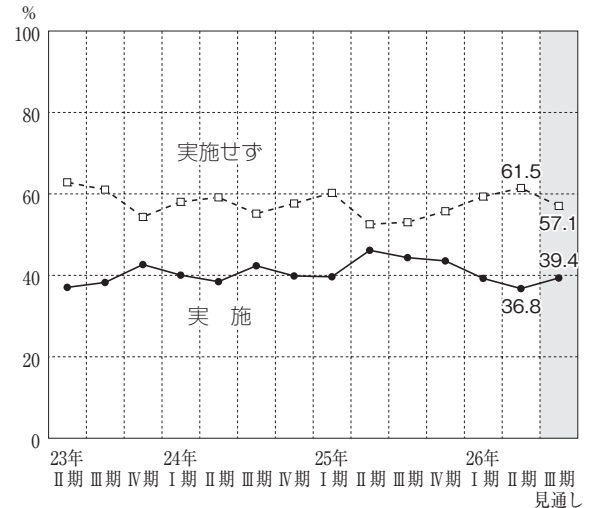
所定外労働時間と雇用者数の現状 (B S I)



経営上の問題点 (%)



設備投資実施割合



原材料供給懸念により 2 期連続の悪化

◎業況判断

【今期】(2026年4～6月期〈Ⅱ期〉)

業況判断 B S I : ▲29.4 (前期比▲ 3.7ポイント)

<内訳>

- ・よくなった 9.3% (前期比+ 5.0ポイント)
- ・悪くなった 38.7% (前期比+ 8.7ポイント)
- ・変わらない 52.0% (前期比▲13.7ポイント)

<業種別>

- ・前期比改善: 3業種 (「機械」「印刷・出版」「窯業・土石」)
- ・前期比悪化: 5業種 (「化学・石油」「鉄・非鉄金属」「食料品」「木材・家具」「その他」)

中東情勢の悪化による原材料供給懸念から「化学・石油」が悪化したほか、同情勢悪化の影響を間接的に受けている「鉄・非鉄金属」も軟調であり、全体の業況判断 BSI も悪化した。

【来期】(2026年7～9月期〈Ⅲ期〉)

業況判断 B S I : ▲ 8.2 (今期比+21.2ポイント)

<内訳>

- ・よくなる 23.3% (今期比+14.0ポイント)
- ・悪くなる 31.5% (今期比▲ 7.2ポイント)
- ・変わらない 45.2% (今期比▲ 6.8ポイント)

<業種別>

- ・今期比改善: 5業種 (「化学・石油」「鉄・非鉄金属」「機械」「食料品」「木材・家具」)
- ・今期比悪化: 1業種 (「窯業・土石」)
- ・今期比不変: 2業種 (「印刷・出版」「その他」)

一部自動車メーカーからの受注が好調な「機械」の改善が見込まれているほか、加工機械メーカーからの需要が旺盛な「鉄・非鉄金属」も上向くとみられ、全体の業況判断 BSI も改善する見通し。

◎売上高と収益

【今期】

売上高 B S I : ▲14.5 (前期比▲ 0.2ポイント)

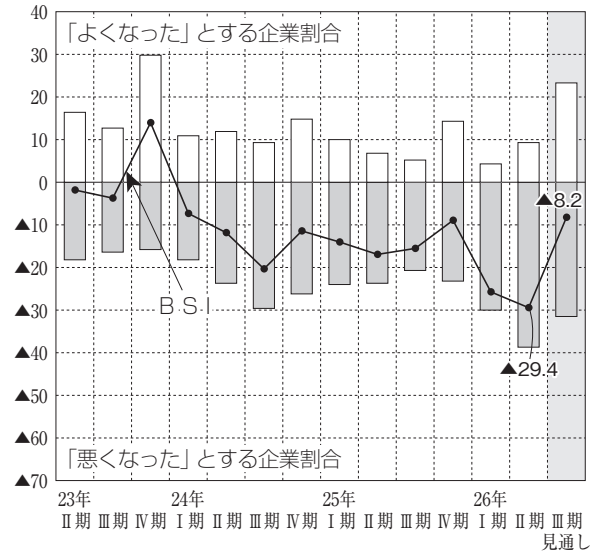
収益 B S I : ▲25.0 (前期比+ 5.0ポイント)

【来期】

売上高 B S I : + 5.3 (今期比+19.8ポイント)

収益 B S I : ▲ 7.9 (今期比+17.1ポイント)

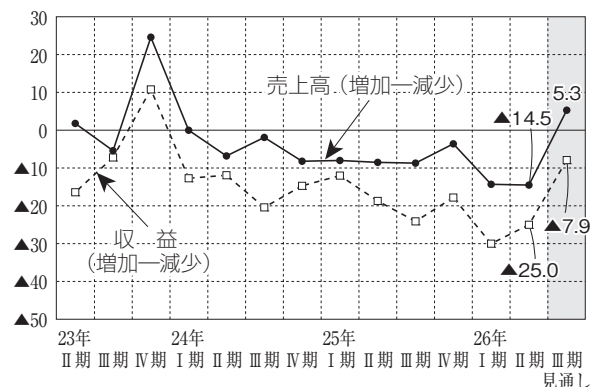
業況判断 (B S I)



業況判断指数内訳 (B S I)

	2025年 Ⅳ期	2026年 Ⅰ期	2026年 Ⅱ期	2026年 Ⅲ期見通し
化学・石油	0.0	▲25.0	▲44.0	▲22.2
鉄・非鉄金属	▲40.0	▲27.3	▲45.5	▲22.2
機 械	▲ 6.2	▲25.0	▲23.8	13.7
食 料 品	8.3	0.0	▲ 6.6	7.2
木材・家具	0.0	▲40.0	▲66.7	0.0
印刷・出版	▲50.0	▲80.0	▲50.0	▲50.0
窯業・土石	0.0	▲33.3	0.0	▲50.0
そ の 他	▲20.0	▲25.0	▲33.3	▲33.3
製 造 業	▲ 8.9	▲25.7	▲29.4	▲ 8.2

売上高と収益 (B S I)



卸・小売業

(59社)

卸売業は改善、小売業は前期と同水準

◎業況判断

【今期】(2026年4～6月期〈Ⅱ期〉)

『卸売業』

業況判断BSI : ▲ 7.7 (前期比+11.5㊦)

<内訳>

- ・よくなった 11.5% (前期比+ 3.8㊦)
- ・悪くなった 19.2% (前期比▲ 7.7㊦)
- ・変わらない 69.2% (前期比+ 3.8㊦)

『小売業』

業況判断BSI : ± 0.0 (前期比± 0.0㊦)

<内訳>

- ・よくなった 21.9% (前期比▲ 1.4㊦)
- ・悪くなった 21.9% (前期比▲ 1.4㊦)
- ・変わらない 56.3% (前期比+ 3.0㊦)

卸・小売業ともに売上高・収益BSIが改善したことで、卸売業は業況判断BSIも改善し、小売業は前期と同水準を維持した。卸売業では、価格転嫁の実施による商品単価の上昇が、売上高の増加や収益の向上に寄与した。

【来期】(2026年7～9月期〈Ⅲ期〉)

『卸売業』

業況判断BSI : ▲46.1 (今期比▲38.4㊦)

『小売業』

業況判断BSI : ▲ 9.4 (今期比▲ 9.4㊦)

業況判断BSIは、卸・小売業ともに悪化の見通し。中東情勢の悪化による商品原材料の供給懸念が物価高の一因となっており、消費マインドの悪化が危惧される。

◎卸売業：売上高と収益

【今期】

売上高BSI : ▲ 7.7 (前期比+19.2㊦)

収益BSI : + 4.0 (前期比+38.6㊦)

【来期】

売上高BSI : ▲34.6 (今期比▲26.9㊦)

収益BSI : ▲38.4 (今期比▲42.4㊦)

◎小売業：売上高と収益

【今期】

売上高BSI : + 6.0 (前期比+ 9.2㊦)

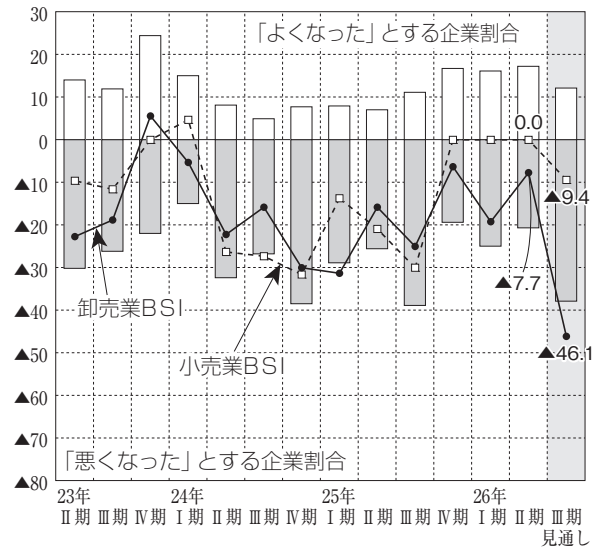
収益BSI : ▲ 3.0 (前期比+ 6.7㊦)

【来期】

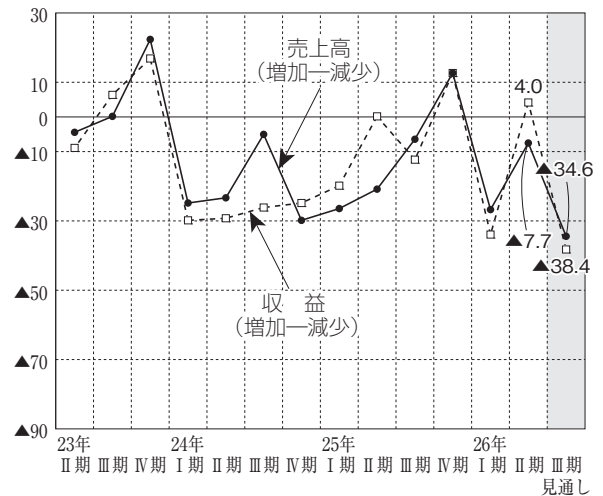
売上高BSI : ▲12.1 (今期比▲18.1㊦)

収益BSI : ▲15.2 (今期比▲12.2㊦)

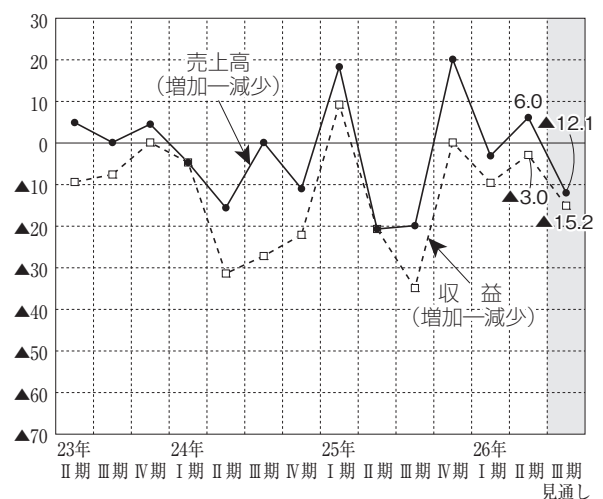
業況判断 (B S I)



〔卸売業〕 売上高と収益 (B S I)



〔小売業〕 売上高と収益 (B S I)



2期連続の悪化

◎業況判断

【今期】(2026年4～6月期〈Ⅱ期〉)

業況判断BSI : ▲15.7 (前期比▲10.1㊦)

<内訳>

- ・よくなった 15.6% (前期比+ 4.5㊦)
- ・悪くなった 31.3% (前期比+ 14.6㊦)
- ・変わらない 53.1% (前期比▲19.1㊦)

受注量や収益の減少が続いていることから、業況が「悪くなった」と回答する企業の割合が上昇し、業況判断BSIは2期連続で悪化した。

【来期】(2026年7～9月期〈Ⅲ期〉)

業況判断BSI : ▲31.2 (今期比▲15.5㊦)

<内訳>

- ・よくなる 6.3% (今期比▲ 9.3㊦)
- ・悪くなる 37.5% (今期比+ 6.2㊦)
- ・変わらない 56.3% (今期比+ 3.2㊦)

来期は中東情勢悪化を背景とした建設資材高騰による収益悪化の不安感等から、業況判断BSIは今期より悪化する見通し。

◎売上高と収益

【今期】

売上高BSI : ▲ 6.2 (前期比▲ 0.8㊦)

収益BSI : ▲ 9.4 (前期比▲ 6.7㊦)

【来期】

売上高BSI : ▲25.0 (今期比▲18.8㊦)

収益BSI : ▲34.4 (今期比▲25.0㊦)

◎所定外労働時間と雇用者数の現状

【今期】

所定外労働時間BSI : ▲ 6.4 (前期比▲ 9.2㊦)

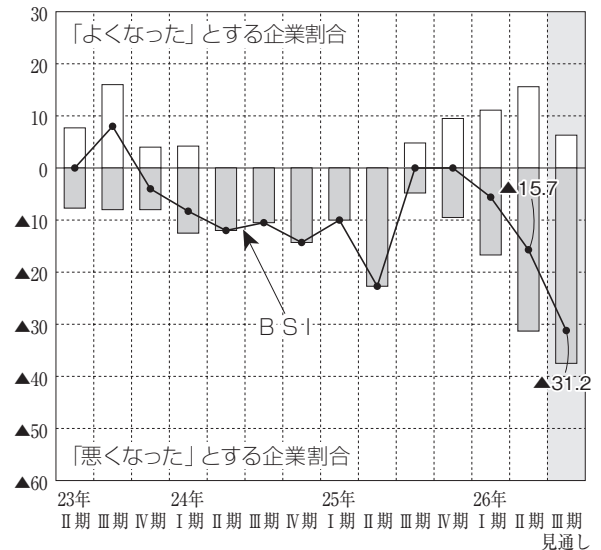
雇用者数の現状BSI : ▲70.0 (前期比+ 3.0㊦)

【来期】

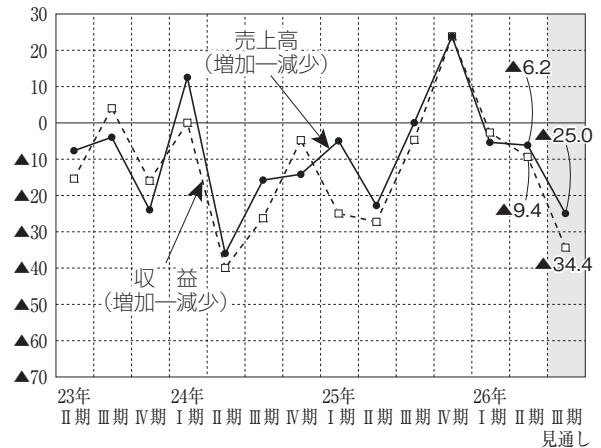
所定外労働時間BSI : ▲ 3.2 (今期比+ 3.2㊦)

所定外労働時間BSIの悪化に対し、雇用者数の現状BSIは改善したが、7割の企業が従業員数が不足していると回答しており、依然として人手不足感は強い。

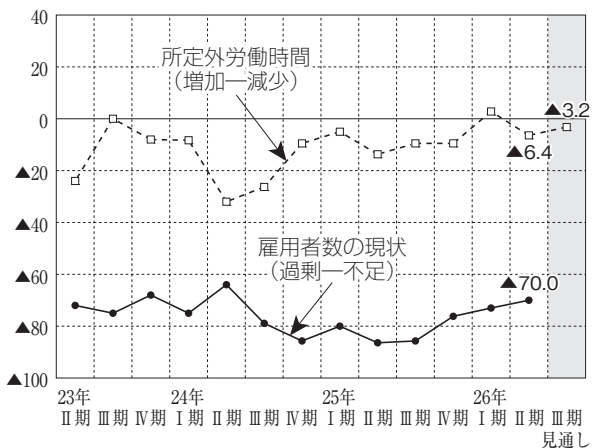
業況判断 (B S I)



売上高と収益 (B S I)



所定外労働時間と雇用者数の現状 (B S I)



コスト上昇により 2 期連続の悪化

◎業況判断

【今期】(2026年4～6月期〈Ⅱ期〉)

業況判断BSI : ▲17.5 (前期比▲17.5%)

<内訳>

- ・よくなった 17.5% (前期比▲0.4%)
- ・悪くなった 35.0% (前期比+17.1%)
- ・変わらない 47.5% (前期比▲16.6%)

業況判断BSIは2期連続の悪化となった。中東情勢の悪化による資材価格の高騰が要因となった。

サービス業のうち観光関連の17社では、「よくなった」と回答した企業は前期と変わらず17.6%、「悪くなった」と回答した企業は前期比5.9ポイント増の29.4%となった。コスト上昇が業況の悪化につながったと見られる。

観光関連以外の23社では、「よくなった」と回答した企業は17.4%、「悪くなった」と回答した企業は39.1%だった。

【来期】(2026年7～9月期〈Ⅲ期〉)

業況判断BSI : ▲2.6 (今期比+14.9%)

<内訳>

- ・よくなる 17.9% (今期比+0.4%)
- ・悪くなる 20.5% (今期比▲14.5%)
- ・変わらない 61.5% (今期比+14.0%)

◎売上高と収益

【今期】

売上高BSI : ▲2.5 (前期比▲2.5%)

収益BSI : ▲5.0 (前期比±0.0%)

【来期】

売上高BSI : +12.8 (今期比+15.3%)

収益BSI : +12.8 (今期比+17.8%)

◎所定外労働時間と雇用者数の現状

【今期】

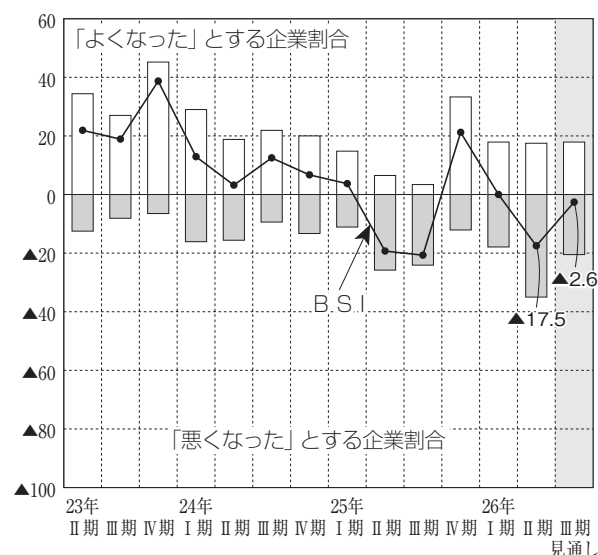
所定外労働時間BSI : ▲17.5 (前期比▲9.9%)

雇用者数の現状BSI : ▲42.5 (前期比+13.9%)

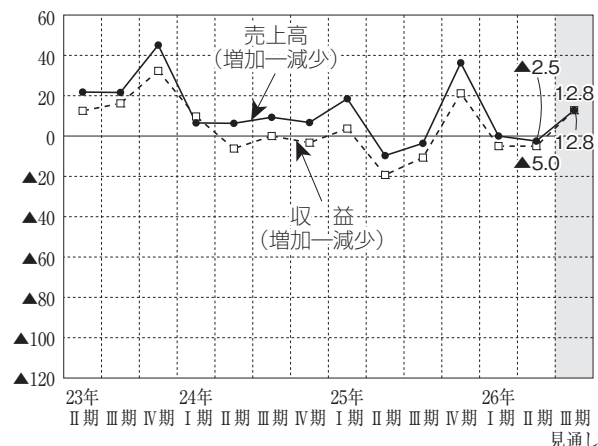
【来期】

所定外労働時間BSI : ▲2.6 (今期比+14.9%)

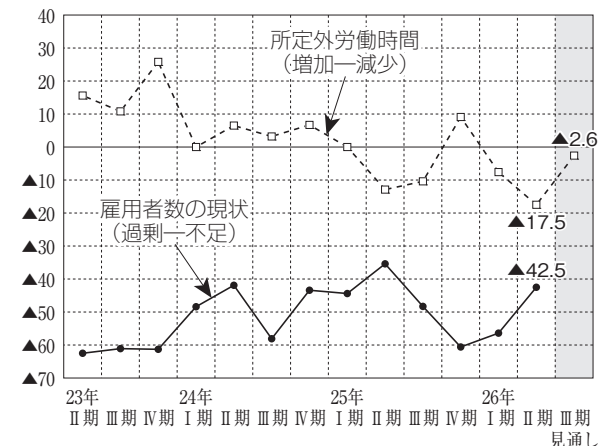
業況判断 (B S I)



売上高と収益 (B S I)



所定外労働時間と雇用者数の現状 (B S I)



BSIとは

BSIとは“Business Survey Index”の略

企業経営者の業況に関する判断や景気見通しを“よくなる・よくなった”、“変わらない”、“悪くなる・悪くなった”という3つの形式で回答を求め、これを数値であらわしたものである。

BSIは次の数式で求められる。

①〔よくなる〕+〔変わらない〕+〔悪くなる〕=100%とする

②〔変わらない〕の回答分を除く

③ $BSI = [よくなる] - [悪くなる]$

BSIが前期を上回れば景気は改善、前期を下回れば悪化という見方をする。

調査の概要

当調査は、大銀経済経営研究所、大分信用金庫、大分県産業創造機構の三者合同によるアンケート調査である。

◎調査時点 2026年5月20日

◎調査の内容

- ・自社の景況の実績と見通し
- ・売上高と収益の実績と見通し
- ・設備投資実施割合
- ・経営上の問題点など

◎調査対象

- ・県内に本社または出先事業所を有する企業415社

◎回答企業数 231社

・回答率 55.7%

・規模別割合

資本金1千万円未満・個人	6.9%
資本金1千万円～1億円未満	63.2%
資本金1億円以上	10.4%
無回答	19.5%